



人とともに 地域とともに

国立大学法人

島根大学

環境報告書

2011

ダイジェスト版

「東日本大震災」の被災お見舞い

このたびの大震災によって亡くなられた方々のご冥福を謹んでお祈りしますとともに、被災された皆様方に、心からのお見舞いを申し上げます。

島根大学では、被災地域の皆さま方に対する支援活動を行っています。

一日も早い復興をお祈り申し上げます。

国立大学法人島根大学長 山本 廣基

島根大学では、環境に配慮した活動を推進するため、印刷物での公表はダイジェスト版のみとしています。

本冊の環境報告書は、島根大学ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

HPアドレス：http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems_report/

学長からのメッセージ



持続可能な社会の構築に向けて

本学は、自然環境と調和する社会を実現することの重要性を認識して、持続可能な社会を担うことのできる「人材育成」を使命の一つとしています。

本学のEMS活動では、教育、研究を主な事業とする大学という特徴を生かし、著しい環境側面として環境教育、環境研究を取り上げています。構成員と準構成員が一丸となったこれからの活動を通じて、地域住民に対する環境リテラシーに関する啓蒙とともに学生に対する環境マインドの醸成をはかっているところです。

さて、3月11日に起きた東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。連日の報道を見ていて、私たちの価値観を改めて問い直すにはおれませんでした。便利さ、快適さを追求してきた経済発展至上主義の社会から、低消費で持続的な社会へ、都市集中型の社会から地方分散型の社会に変わっていく、そのような価値観の大きな変革が必要ではないでしょうか。

本学のEMS活動によって学内環境の改善のみならず、持続可能な社会を構築し、それを担うことのできる環境マインドを持った学生を社会に送り出す教育と、社会の環境改善に資する研究を通して、本学の社会的責任を果たしたいと考えています。

島根大学長 **山本 廣基**

島根大学環境方針

島根大学憲章に基づき、キャンパス内の全ての教職員および学生等の協働のもと、自然と共生する持続可能な社会の発展をめざして、以下の活動を積極的に推進します。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界的視野を持って、自ら主体的に学び行動する人材の育成に努めます。
2. 研究成果の普及、医療サービス管理の実施により、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。
3. 環境と調和する施設整備を進めるとともに、教職員および学生等全体で、知と文化の拠点にふさわしい快適な学内環境の構築に努めます。
4. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、グリーン購入および化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行い、環境に配慮したより良い教育、研究、医療サービスに努めます。
5. 本学に適用される環境関連の法令および本学が決めた事項を守ります。
6. 本学の環境関連情報は、大学ホームページなどを通じて積極的に公表します。

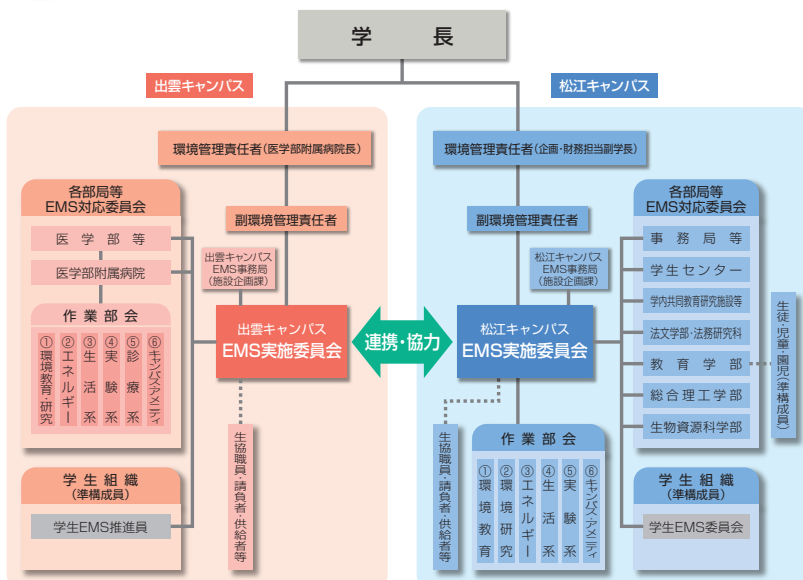


<http://www.shimane-u.ac.jp/i/houshin.html>

2009年4月1日（第3版）

島根大学長 **山本 廣基**

環境マネジメントシステムの運用組織



自転車撤去

〈特徴〉

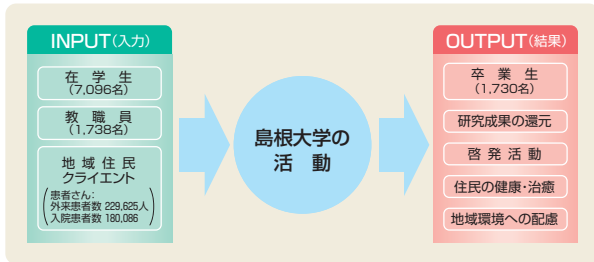
- ◎学生、生徒、児童、園児までもが「準構成員！」
- ◎学生EMS委員会：学長から正式に委嘱され、教職員と対等に議論し、EMSの運営や内部監査にも携わるという画期的な体制！

環境マネジメントシステム体制図

事業活動にかかるインプット・アウトプット

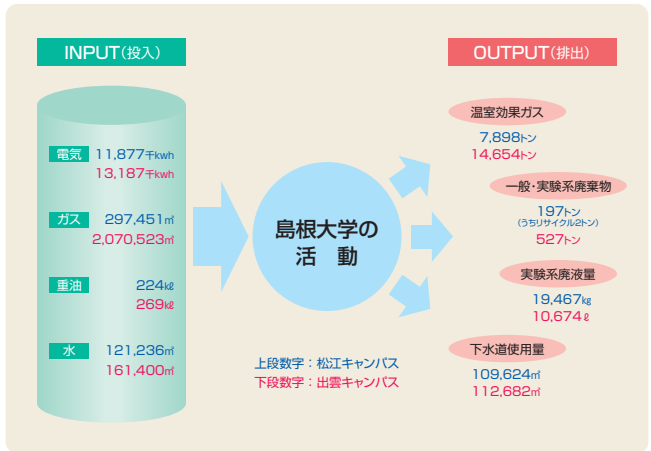
環境負荷の抑制だけでなく、環境貢献のさらなる向上へ

島根大学では、約7,100名の学生が勉学等を行い、約1,700名の教職員が教育や研究活動に携わっています。これらの活動は、様々な環境悪化の原因となり得る要素・側面を有している一方で、環境に貢献し得る要素・側面も備えています。環境方針で謳っているように、すべての教職員及び学生等の協働のもと、それらの要素・側面について適切なマネジメントを行うことにより、自然と共生する持続可能な社会の発展をめざしています。



(※在学学生、教職員数は2010年5月1日現在、卒業生数は2011年3月31日現在、患者数は2010年度延べ人数)

島根大学の事業成果



島根大学の資源投入と環境負荷(2010年度)

環境教育



自ら主体的に学び行動する人材の育成

島根大学では、次代の社会を築く主体者である学生に対する環境教育に力を注いでいます。「持続可能な社会」を構築するために、環境教育を通じて、地球環境についての理解とその保全に必要な①倫理観、②知識・理解、③技能・力量、④実践的態度を身につけた学生の育成を行っています。



授業を側面からサポートする学生の様子



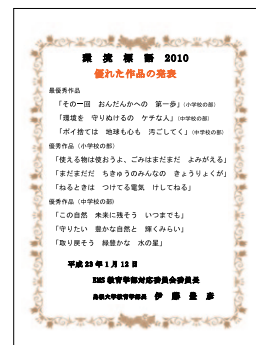
医学科「環境保全と公害」の講義風景

継続的な環境教育活動(附属学校部)

附属学校部では、「環境」に対する子ども達の活動は「遊戯」「授業」「課外活動」「生徒会、児童会での活動」「遊び」など多岐にわたっており、様々な学習機会や遊びを通して環境を学べるよう「環境教育記録簿」による管理を行っています。継続した活動が環境意識の向上につながっており、今後も子ども達の成長に役立てていきたいと考えています。



落ち葉プールおよぎ(幼稚園)



環境標語2010(小学校・中学校)

環境研究



地域や社会に貢献できる環境研究の普及を目指して

島根大学では、現在120名を超える教員が環境問題に関係した研究を行っています。

これらの研究の成果は、社会や学界に発表しています。地域や社会への窓口としては、いくつかの種類の研究情報データベースを公開しています。また、環境に関する研究に特化したウェブページとして、「島根大学の環境研究」を作成し、出前講義も実施しています。

●島根大学教員情報検索システム：島根大学HP → 教員検索システム
<http://www.staffsearch.shimane-u.ac.jp/kenkyu>

●島根大学の環境研究：島根大学HP → 大学紹介 → 環境への取組 → 環境に関する研究
http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/e_research/

学部	環境研究の内容
法文学部	環境政策・経済学、公害問題研究など
教育学部	エコ材料の開発、水中カメラによる水環境モニタリング、土壌汚染メカニズムの解明など
医学部	環境と健康、労働環境、環境汚染物質の健康への影響、感染リスクマネジメントなど
総合理工学部	新エネルギー、エコ材料、リサイクル技術、水環境調査、酸化亜鉛を用いた太陽光発電など
生物資源科学部	リサイクル材料による水質浄化、屋上緑化、高気温下での農業技術、農業分解微生物など
汽水域研究センター	宍道湖・中海の水質調査、生態系の解明、遺伝子バンクのデータベース化など

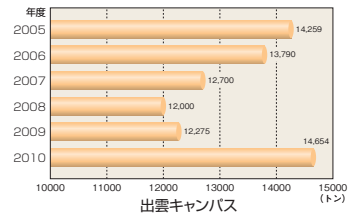
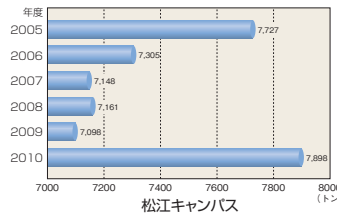
島根大学で行われている環境研究の内容

エネルギー消費の抑制



異常気象による二酸化炭素排出量の目標未達成

2010年度は、夏の酷暑・冬の大雪等の異常気象により、二酸化炭素排出量が松江キャンパスでは2003年度比0.3%削減、出雲キャンパスでは前年度比19.4%の増加となり、両キャンパスとも大幅に目標未達成となりました。今後は、高効率の機器類導入や環境面とコストの問題等を検討し、二酸化炭素排出量の削減に向けて取組みます。



二酸化炭素排出量

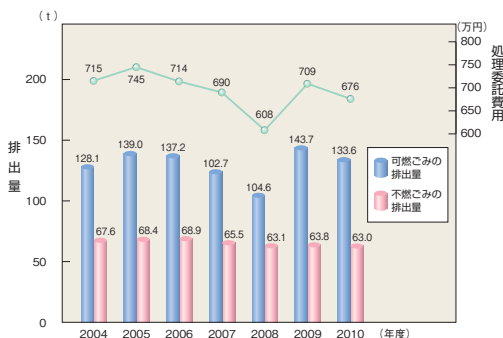
リサイクルとごみ低減対策



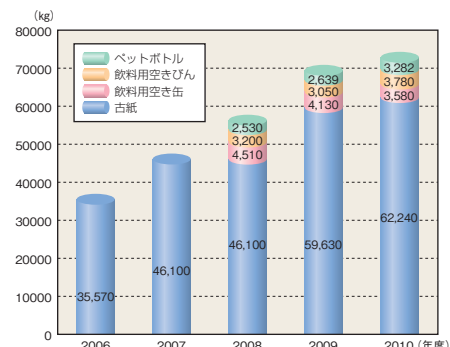
廃棄物の継続的な削減を目指して

松江キャンパスでは、原則としてキャンパス内にごみ箱を設置せず、学内に2ヶ所設置されている「資源リサイクルステーション」へ持ち込むこととなっています。2010年度は、前年度著しく増加した可燃ごみについては、2008年度並みには及ばないものの減少に転じ、可燃および不燃ごみの総排出量は前年度比約5%減少し、約30万円の経費節減になりました。

出雲キャンパスでは、約1,400名の教職員・学生に加えて1,500名以上の外来・入院患者さんおよび関係者が日々活動しており、排出される生活系ごみも300トン以上です。その中で、EMS活動によるリサイクルの推進により、資源ごみの回収量は徐々に増加しています。



可燃・不燃ごみの排出量および委託費用の推移



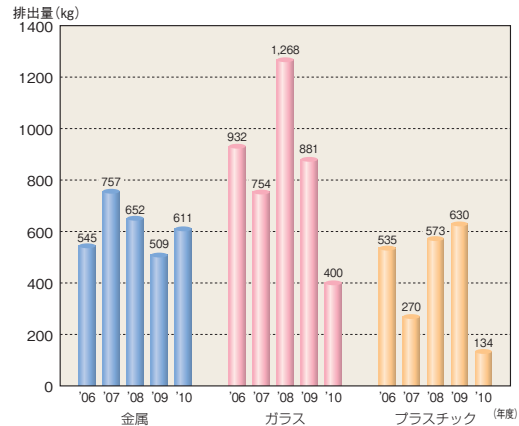
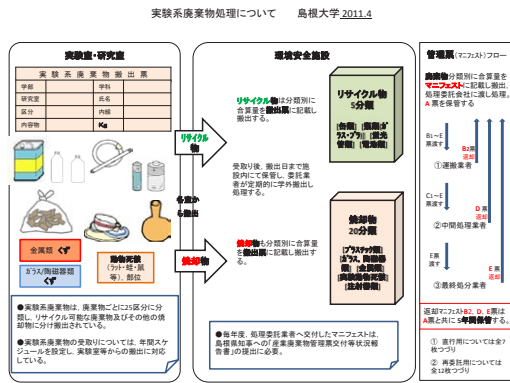
資源ごみ回収量

実験に伴う環境負荷の低減



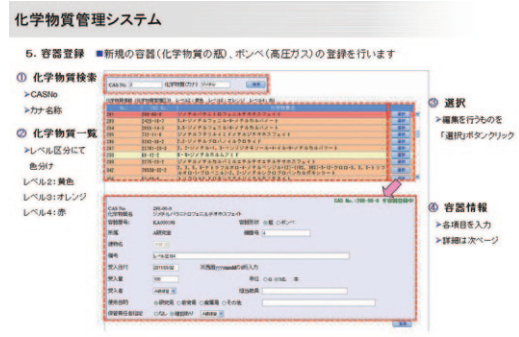
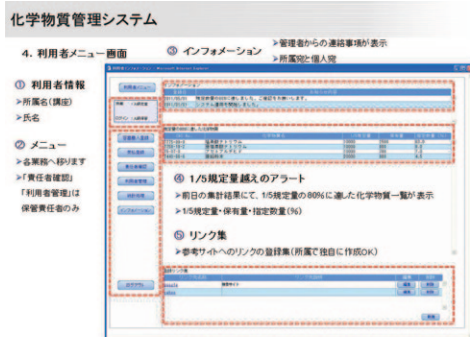
実験系廃棄物の削減および資源の有効活用

松江キャンパスでは、「島根大学実験系廃棄物・廃液管理手引き」に従い、廃棄物は28種類に分別・回収しており、搬出時には教職員および松江キャンパス実験系廃棄物等管理専門委員会から委託された学生により厳密にチェックをしています。



ヒトと環境にやさしい化学物質の使用

出雲キャンパスでは、2010年4月に毒劇物・特定化学物質・PRTR法対象物質・高圧ボンベの使用・保管方法に関する法令の周知徹底と現状把握調査を行い、それらを一元的に管理するため出雲キャンパス独自のWeb入力による化学物質管理システムの開発を行いました。

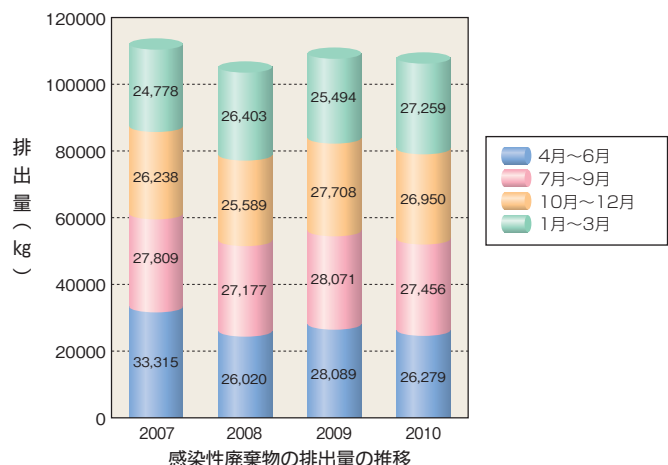


診療に伴う環境負荷の低減



感染症廃棄物の削減を目指して

診療に使用する機材は、感染対策や安全管理の点から、ディスプレイ化（1回の使用で廃棄）が進んでいるため、医療廃棄物の発生量は年々増加していますが、適切な分別回収を行った結果、2010年度は僅かな減少が見られました。感染性廃棄物の分別回収をマニュアルに沿って行う事を今後も徹底して取組みます。



学内環境の整備



教職員と学生の協働のもと、安全・快適で、自然と共生するキャンパスへ

松江キャンパスでは、EMS活動の一環として、毎年11月の昼休み時間を利用し、学生、教職員による落葉清掃を実施しており、2010年度も約150名の参加により、キャンパス内に落葉を集めることができました。集めた落葉は、キャンパス内に腐葉土として集積しています。このように、自然の循環を尊重し、自然に負担をかけない環境保全にも貢献しています。



落ち葉清掃

出雲キャンパスでは、駐車場・駐輪場外への駐車・駐輪を減らすことを目標とし、学生・患者さんへ周知啓発、危険個所の明示などを行い、学部の違法駐輪については指導および放置自転車撤去により一定の成果を上げることができました。



整備前



整備後

指定場所外の駐輪改善状況

環境マネジメントシステムの見直し

点検を恐れず、むしろ積極的に取組んで活かす業務風土・組織文化へ

●ISO14001内部監査員研修およびスキルアップ研修による監査力の向上

島根大学では、EMS活動がISO14001に沿って実施されているか、自ら定めた手順を順守しているかなどの総点検を行う内部監査を毎年実施しています。そのため、内部監査員としての力量を身につけた教職員・学生を毎年養成しています。2010年度は15名（うち4名学生）の養成を行い、内部監査員資格を取得しました。

また、2008年度から新たに内部監査チームリーダーの力量を養成するための「内部監査員スキルアップ研修」を島根大学独自の演習などを取り入れた内容で実施し、このチームリーダーのもと、次のような内部監査を実施することができました。



内部監査員研修



内部監査員スキルアップ研修

●教職員と学生の協働による内部監査

松江・出雲両キャンパスとも内部監査の実施計画を6月から立て、年末までに実施しました。最初にチェックリストを使用したレター監査を実施し、その後に現場監査を行っています。この監査では、悪い事例を発見するだけでなく、大変良い事例についても「有効事例」として他の部署などで活用できるよう、工夫しています。



内部監査

●経営層による環境マネジメントシステムの見直し

その内部監査の結果等に基づいて、2011年2月1日に、両キャンパスの環境管理責任者、副環境管理責任者、EMS事務局と、最高経営者である学長によるEMSの見直し会議を実施しました。両キャンパスともに学長から見直しの指示があり、次年度の方向性が示されました。



学長見直し会議

島根大学2010年度のトピックス

第14回環境報告書賞 公共部門賞を受賞

—PDCAサイクルに沿った活動報告が評価されました—

「島根大学環境報告書2010」は、東洋経済新報社およびグリーンポータリングフォーラム共催、第14回環境報告書賞の公共部門賞を受賞しました。今回の受賞は、「ほぼすべての取組みについて、PDCAの観点から明確に提示している点」が高く評価されたことによるものです。新しく取り入れた掲載方法でしたが、今後への励みとなりました。

なお、この環境報告書賞の最優秀賞は住友林業が、優秀賞はパナソニックと本田技研工業が、公共部門賞は本学の他、東京都水道局、三重大学がそれぞれ受賞しました。また、優良賞(7社)、特別賞(1社)およびサイトレポート賞(2社)も授与されました。



環境・科学の新しい学びの成果「環境寺子屋」

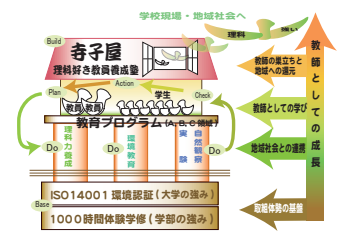
—環境・科学リテラシーを備えた教員の社会への還元を目指して!—

教育学部では、現代的な教育課題の一つである地域・日本の子ども達の理科離れの解消に向けて2008年度にプロジェクトを立ち上げ、文部科学省よりこの取組みに対する予算措置(教育GP)を頂き、2010年度に一旦の完成を迎えました。

学生が大学で学んだ成果を地域社会の教育現場で活かすこの取組みは、学生の自主的・積極的な環境や科学に対する姿勢を大きく育てるとともに、地域社会からも期待されるようになりました。教育学部ではこの「環境寺子屋」に対する声を「成果」と捉え、今後も環境・科学リテラシーを身につけた学生の社会への輩出を目指していきます。



環境寺子屋による体験学修の一場面 (茶摘み体験学修)



環境寺子屋の教育プログラムのイメージ

出雲大社から医学部附属病院へ檜皮炭の寄贈

—防カビ,防臭効果や調湿剤として,環境に優しい病室へ—

60年に一度の遷宮「平成の大遷宮」中に出雲大社から、摂社の一つであり「看護の神」蛸貝比売命(きさがいひめのみこと)と蛤貝比売命(うみがいひめのみこと)が祭られている「天前社(あまさきやしろ)」の屋根を覆っていた檜皮(ひわだ)を加工した炭3,130袋の寄贈がありました。出雲大社は、縁結びの神様として有名な大国主命が祭られていますが、神話において白ウサギを助けた「医薬の神」でもあります。

いただいた檜皮炭は、2011年6月に完成した新病棟の緩和ケア病室や女性専用病室など34病室の天井裏に、防カビ、防臭、調湿作用に加え、医薬と看護の神のご加護があることを祈念し敷設させていただきました。



贈呈式の様子



新病棟病室天井への敷設作業

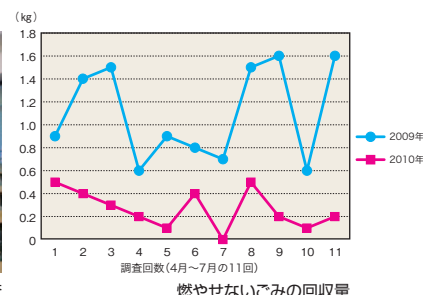
学生の環境に対する取組み

—教室への放置ごみを大幅に減らすことに成功!—

松江キャンパス学生EMS委員会は、放置ごみの削減をして、より良い教室環境にすることを目的に、2009年度から毎週1回(通年)教養棟2号館の「ごみ調査」を実施しています。2009年度に比べ放置ごみは減少しており、学生の意識の変化が見られます。今後は、教養棟2号館以外でもごみ調査を行い、学内全体のごみ問題の改善に向けて活動していきます。



ごみ調査



第三者評価

ISO14001 定期審査合格による認証継続および受賞歴

島根大学では、2006年3月に松江キャンパスにおいて(財)日本品質保証機構(JQA)によるISO14001の認証を取得し、その後毎年範囲を拡大し、2008年3月には医学部および医学部附属病院を含む、全キャンパスでの認証取得を果たしました。2008年10月には、3年目の更新審査も合格し、2010年10月の定期審査でも、継続的改善がされていると認められました。

また、これまでに数々の賞も授かることができました。



定期審査

〈環境マネジメントシステムの取組み経緯〉

2006年3月	松江キャンパスでISO14001認証取得
2006年9月	「松江市環境保全功労表彰」受賞
2007年3月	定期審査合格および大輪地区、本庄地区へ範囲拡大認証取得
2008年3月	定期審査合格および出雲キャンパスへ範囲拡大認証取得 (附属病院を含む総合大学としては全国初、唯一の認証取得)
2008年3月	「第11回 環境コミュニケーション大賞環境報告書部門 優秀賞」受賞
2008年10月	ISO14001更新審査合格
2009年10月	定期審査合格
2010年10月	定期審査合格
2011年2月	「第14回 環境報告書 公共部門賞」受賞(トピックス参照)



環境省は、環境報告書の特徴を表す5項目を挙げ、全て備えている国立大学法人は千葉、三重と本学の3大学のみとしています。

<http://www.env.go.jp/policy/envreport/specific/list01.html>

学生の環境に対する取組み

松江キャンパスでの独自活動

2010年度は学部生、大学院生を含めた26人が正式な学生EMS委員会委員として、EMSの実施・改善とキャンパス内の環境改善を目標に掲げ、学生独自の視点からEMS運営に関わり、新入生へのEMS教育、環境サミットの開催、教養棟でのごみ調査、落葉清掃、ニュース発行などを実施しました。特に教養棟のごみに関しては目に見える成果が現れてきています(トピックス参照)。



新入生基本教育



内部監査

出雲キャンパスでの独自活動

学生取組みとして継続的に活動しているものに、毎月1回行うEMS学生委員会議があります。会議には、各学年から1名以上の学生が委員として出席し、主に駐輪、駐車、喫煙およびごみ問題について、具体的な対策を検討しています。このうち、議題としてあがった問題については、ニュースを発行し、メーリングリストで学生に呼びかけ、出来る限り全学生へ周知できるよう努力しています。



学生EMS委員による植え付けの様子



花壇



島根大学環境報告書2011 ダイジェスト版
 国立大学法人
 島根大学財務部施設企画課
 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
 TEL:0852-32-9829 FAX:0852-32-6049
 E-Mail:zki-kankyo@jn.shimane-u.ac.jp